研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-540		21-095	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Joint associations of adiposity and alcohol consumption with liver disease-related morbidity and mortality risk: findings from the UK Biobank

肝疾患の発症と死亡のリスクに対する肥満と飲酒の複合影響：UK バイオバンク

執筆者

Inan-Eroglu E, Huang BH, Ahmadi MN, Johnson N, El-Omar EM, Stamatakis E.

掲載誌

Eur J Clin Nutr. 2022 Jan;76(1):74-83. doi: 10.1038/s41430-021-00923-4.

キーワード	PMID
肝疾患、脂肪肝、肥満、複合影響	34059777

要　旨

目的：

肥満（BMI と腹囲）と飲酒の非アルコール性脂肪肝（NAFLD）とアルコール性肝疾患（ALD）の発症・死亡への複合影響を明らかにする。

方法：

飲酒量は英国のガイドラインで分類した（週 14 単位）。データを Cox 比例ハザードモデルで分析した。約 46 万人の平均 10.5 年の追跡期間中に、1090 の肝疾患死亡、230 の ALD、192 の NAFLD が発症した。

結果：

多変量解析において、飲酒する肥満者の ALD, NAFLD 発症、肝疾患死亡リスクは、正常体重者よりも高かった。飲酒する肥満者は、正常体重者にくらべ肝疾患発症で 1.52、肝疾患死亡で 2.20 の高いハザード比を示した。飲酒と腹囲の肝疾患発症・死亡への影響は同程度だった。飲酒および高い腹囲の人は、腹囲正常の人より肝疾患発症・死亡リスクが高かった（ハザード比 1.59, 1.87）。

結論：

肥満は、飲酒による肝疾患発症・死亡リスクを増強するエビデンスが得られた。